

現状と課題

公共下水道は、市民が健康で快適な生活を営む上で不可欠な事業であり、今後も施設整備の促進を図る必要があります。

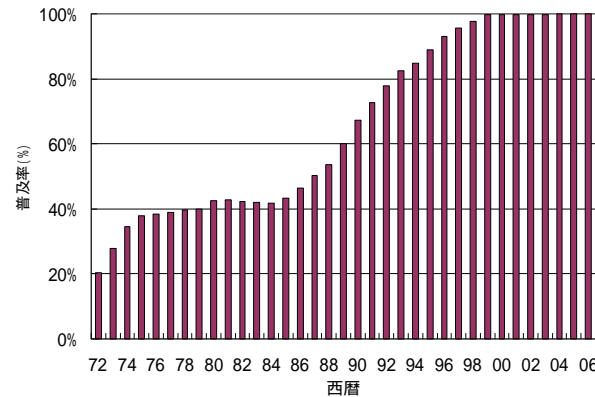
本市の下水道事業は、昭和26年に着手し、現在5,585haを整備区域と定めて、市が運営する西宮処理区と兵庫県が運営する武庫川流域下水道の上流処理区、下流処理区の3処理区で処理を行い、人口普及率は99.9%に達しています。

近年多発している局所的な集中豪雨による浸水被害を軽減するため、現在整備中の下水道の排水能力を増強する対策が求められています。

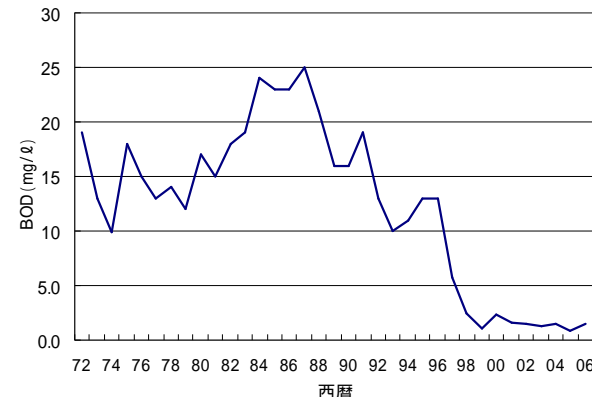
大阪湾の水質環境基準を達成するための高度処理の導入や合流式下水道の改善の取り組みを始めています。

下水道経営については、平成19年度に公営企業会計方式を導入し、経営の明確化、透明化の向上を図っています。

市内を流れる、兵庫県が管理する2級河川や、市が管理する普通河川（水路）を改築する場合には流下能力を増強するとともに、市民に親しまれる豊かな水辺空間として整備することが求められています。



下水道人口普及率の推移



夙川の水質の推移 (BOD年平均値)



昭和45年(1970年)代の夙川



現在の夙川

基本方針

下水道事業は、健全な水環境の創造や安心して安全なまちづくりなど多様なニーズに対応するため、企業会計に基づく安定した財政基盤の構築を目指すとともに、雨水整備・合流改善・高度処理・改築更新などの事業を進めていきます。また、市民にうるおいを与える水辺空間の創造に努めます。

主要な施策展開

(1) 浸水対策の推進

短時間の局地的な集中豪雨により発生する浸水被害を軽減するため、管渠の増設や雨水貯留施設、浸透施設の配置により、時間雨量55mm<sup>(1)</sup>に対応する流出抑制型の施設整備に着手します。

(2) 良好な水環境の創造

合流式下水道の改善を進めるとともに、大阪湾の水質環境基準を達成できるよう高度処理を導入します。

(3) 下水道資源の有効利用

下水処理水や貯留した雨水の多目的利用を図るとともに、兵庫県が広域的に実施している下水汚泥処理により発生する汚泥の有効利用について検討します。

(4) 下水道経営の健全化

中長期計画を策定し、重点的な投資、施設の効率的な維持管理及び経営の効率化を図り、持続可能な下水道経営の確立に努めます。また、経営状況や将来の収支見通しを公表し、市民に開かれた経営に努めます。

(5) 治水安全度の向上

兵庫県に対して、2級河川の治水安全度の向上に向けた早期の整備を要請します。

(6) 多自然川づくりの推進

河川や水路を改築する場合には、親水施設の設置や自然環境に配慮した多自然川づくりの推進に努めます。

市民一人ひとりの活動

下水道が環境へ果たす役割について理解を深める。  
水路や河川の美化に努める。

まちづくり指標

< 指標の考え方 >

安心して安全なまちづくりを進めるため、下水道雨水整備率を重点指標に位置付けます。また、本計画期間においては、健全な水環境の確保に努める必要があることから、合流改善や高度処理に取り組みます。

重点	指標名	単位	現状値 (H18)	目標値 (H30)	指標方向
	下水道雨水整備率	%	92.8	95.0	↑
		式	雨水整備済み面積 (6年確率幹線整備済み面積) / 計画排水面積		
		H30目標値の設定理由 健全経営の範囲内での目標数値			
	合流式下水道改善事業進捗率	%	3.1	28.0	↑
		式	合流改善事業投資済み事業費 / 合流改善事業総事業費		
		H30目標値の設定理由 健全経営の範囲内での目標数値			
	高度処理事業進捗率	%	9.5	39.0	↑
		式	高度処理事業投資済み事業費 / 高度処理事業総事業費		
		H30目標値の設定理由 健全経営の範囲内での目標数値			

主な部門別計画

西宮市の都市計画に関する基本的な方針（都市計画マスタープラン）  
【都市計画部：平成14年8月～平成24年8月】  
西宮市公共下水道全体計画書 【下水道部：平成17年4月～】

1： 神戸海洋気象台と大阪管区気象台の過去30年間の降雨データを用いた確率計算により、10年に一度起こりうる降雨として時間雨量55mmを算出している。